

広報

やまこし

1979 9月 第135号

発行/新潟県古志郡山古志村役場 電話 (025859) 2331 印刷/大川印刷株式会社 毎月1日発行



お知らせ

萱加工のアイデア募集

最近、素材で洗練された手づくりの民芸品などが、高く評価され、一般に親しまれています。
村内では、萱ぶきの屋根が少なく、草刈りをしなくなって、至るところに繁っている萱が目につきます。そこで、この繁っている萱で民芸品をつくるなど、有効に利用できるかどうかと考へ、そのアイデアを募集します。
ふるってご応募ください。
〔内容〕萱を材料にしたもの、作品、あるいは文章(原稿用紙一枚程度) 部落名、氏名を明記してください。
〔締切〕九月二十日
〔応募先〕山古志村観光協会、または役場産業課へ
〔ほう賞〕応募内容を審査して、優秀なものについて賞を贈ります。
金賞一点 銀賞五点以内



テレビ放送のお知らせ

「山古志をたずねて」

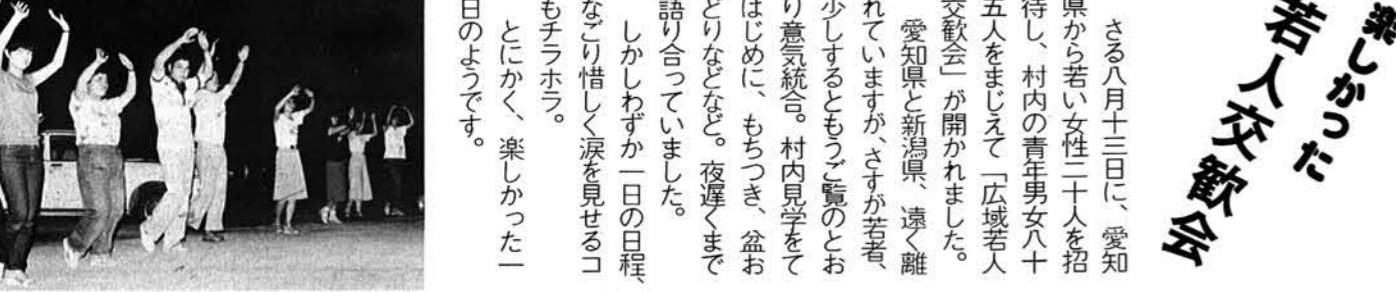
さる八月十五日、NSTによる「ふるさと散歩」のテレビ撮影が行われましたが、この放送が次のとおり行われます。
NST新潟総合テレビ
ふるさと散歩
「山古志をたずねて」
9月15日(土) 敬老の日
午前7時30分~8時

子どもの問題でお悩みの方はご相談ください

三古社会福祉事務所・家庭児童相談室では、子ども(十八歳未満)に関する問題について、どんな小さなことでも相談に応じています。
子供の幸せのためにも、一人で悩まず、お気軽にご相談ください。
電話や手紙でも結構です。
○相談日 毎週月・土曜日
八時三十分~十七時(土曜日は正午まで)
○所在地 長岡市四郎丸沖田長岡総合庁舎内 三古社会福祉事務所 家庭児童相談室
☎(34)三一一一 内線二二六
▽相談には二人の相談員と社会福祉主事があります。
※ なお五十二年度に、山古志村から七人の方が相談されました。

戦争犠牲者に対する援護措置が改善されます

さきの法律改正で、戦争犠牲者(戦没者の遺族、戦傷病者)に対する援護措置が、それぞれ次のとおり改善されました。
▼戦争病者戦没者遺族援護法関係
(一)、第一款症の障害証書をお持ちの方が、昭和51年10月1日から昭和54年9月30日までに、この年金をもらうこととなった病者やけが以外の病気で死亡した場合(平病死)には「障害者遺族特別年金」が支給されます。また、昭和54年10月1日以後、平病死されたときは「第一款症平病死年金」が支給されます。
なお「障害者遺族特別年金」は昭和51年10月1日から増額され「第一款症平病死年金」として支給されます。
(二)、昭和21年2月1日から昭和28年7月31日までの間に、再婚し、この期間に離婚した妻については昭和40年10月1日~昭和54年9月30日の間に、また死別した妻については昭和42年10月1日~昭和54年9月30日に、援護法の処遇の対象となった戦没者の遺族である場合は、昭和54年10月1日から「遺族年金」が支給されることになりました。
▼戦争病者の妻に対する特別給付金支給法関係
昭和51年10月1日現在生存している者で次に該当する場合は、五万円(特項症・一款症) または二万五千元(二~五款症) が
(一)、旧陸海軍部内の判任文官など(旧陸軍または海軍部内の警部、監獄看守長、警査、巡査、陸軍通訳生、海軍書記、理事官、事務官、従軍文官等)の遺族で、昭和54年3月31日までに公務扶助料の受給者がいなくなった。
(二)、旧陸海軍部内の判任文官など(一)に該当し、昭和54年4月1日現在生存している遺族の最優先者一名に、十二万円が国債により支給されます。
(一)、昭和6年9月18日以降の戦没者の遺族で、昭和50年4月1日~昭和54年3月31日に遺族年金、公務扶助料、殉職者年金等の受給者がいなくなった。
(一)、国債により支給されます。
(一)、昭和48年4月1日以前に増加恩給、傷病年金または障害年金を受給していた戦傷病者と昭和48年4月2日以後婚姻した妻。
(二)、昭和48年4月2日~昭和54年4月1日の間に、増加恩給、傷病年金または障害年金を初めて受給することになった戦傷病者の妻。
▼戦没者の遺族に対する特別弔慰金支給法関係
次に該当し、昭和54年4月1日現在生存している遺族の最優先者一名に、十二万円が国債により支給されます。
(一)、昭和6年9月18日以降の戦没者の遺族で、昭和50年4月1日~昭和54年3月31日に遺族年金、公務扶助料、殉職者年金等の受給者がいなくなった。



若人村青年会

さる八月十三日に、愛知県から若い女性二十人を招待し、村内の青年男女八十五人をまじえて「広域若人交歓会」が開かれました。
愛知県と新潟県、遠く離れていますが、さすが若者、少しするともうご馳のとおりの意気込み。村内見学をはじめに、もちつき、盆おどりなど。夜遅くまで語り合っていました。
しかしわずか一日の日程ながら惜しく涙を見せることもチラホラ。
とにかく、楽しかった一日のようです。

過疎対策意識調査結果

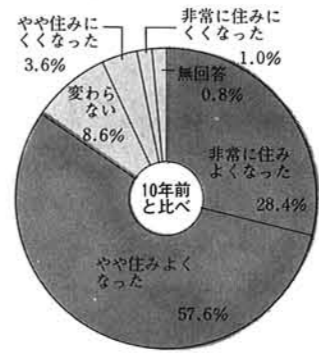
七月に実施した意識調査の結果がまとまりました。集計の結果では、十年前と比べ住みよくなった...八六%は一応評価できるものの、今後住みにくくなると思う...三二%、永住できない、するつもりはない...一六%、さらに、あと継ぎに不安...七七%など、人口減少に結びつく要因が浮彫りにされました。

住みよくなった 86%



ご協力ありがとうございました
調査対象 500人
回収 384人
回収率 76.8%

この調査は、九年間を経過した過疎対策について、村民のみならずの意識を正確に把握し、今後の村の計画に反映させることを目的に行ったものです。



【1】十年前と比べて住みよくなりましたか。

「非常に住みよくなった」「やや住みよくなった」と答えた人が合わせて86.0%と高い比率を示しています。「住みにくくなった」は4.6%。また「住みよくなったが、金が足りすぎて...」という声もありました。

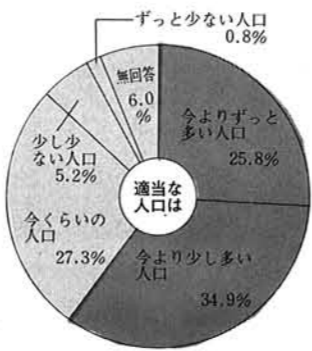
Table listing various community facilities and their counts: 電話の普及 (319), 道路が整備され無雪化になった (318), バスなど交通の便 (213), 学校など教育施設 (167), 保育所 (159), 農道など (134), テレビがよく見える (97), 診療所 (91), 工場などができた (82), し尿処理 (46), その他 (1).

【2】この十年間によくなくなったことは。(五つ以内に○) 「電話の普及」が319人とトップ。続いて「道路整備、無雪化」318人、「バス運行など」213人となっています。電話は現在ほとんどの世帯が加入しており、交通体系の整備は毎年重点においてきた成果といえるでしょう。

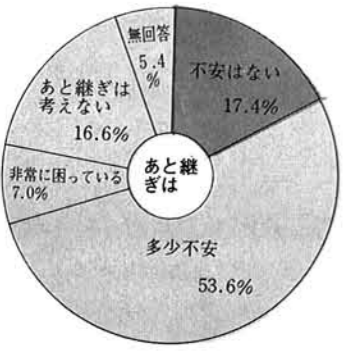
【3】目下、不便なことを、困っていることは。(3つ以内に○) 「冬期の交通が不便」と答えた人が一番多く198人。「道路、交通条件が悪い」も57人おり、質問2で交通体系が以前よりよくなったと答えた人が非常に多いものの、他に比較するとまだまだということでしょう。二番目は「働く場がない、あっても収入が低い」197人。続いて「後継者、若者の配偶者候補がない」193人。続いて「火葬場が貧弱」127人、「診療所が貧弱」124人、「道路、交通条件が悪い」57人、「農業などの生産基盤」54人、「学校、集会所等が貧弱」42人、「その他」5人。

Table listing various community issues and their counts: 冬期の交通が不便 (198), 働く場がない、あっても収入が低い (197), 後継者、配偶者候補がない (193), ゴミ処理施設がない (153), 火葬場が貧弱 (127), 診療所が貧弱 (124), 道路、交通条件が悪い (57), 農業などの生産基盤 (54), 学校、集会所等が貧弱 (42), その他 (5).

【9】あなたの地区で、生活しやすい人口はどのくらいだと思いますか。

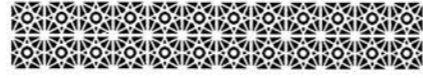


【10】あと継ぎのことで問題がありますか。 「不安はない」と答えた人はわずか17.4%でした。「あと継ぎは考えない」が16.6%、「非常に不安」が7.0%で、合わせて23.6%。ここでも人口減少の要因が大きく含まれています。

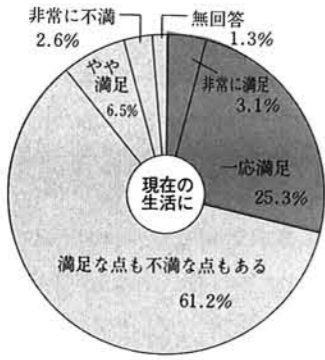


(次のページへ続く)

この10年間で

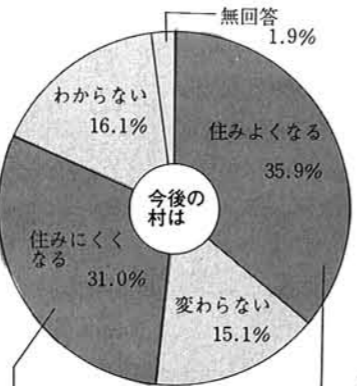


生活に満足していますか。 【4】現在、地区の生活に満足していますか。



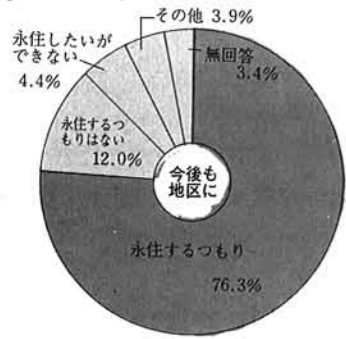
「満足な点も不満な点もある」が過半数の61.2%。「一応満足」は25.3%。現在の生活はママアアというところでしょうか。ただ年齢が低いほど不満の傾向は強くなっています。

【5】あなたの地区は今後、住みよくなるでしょうか。 「住みよくなる」35.9%、「住みにくくなる」31.0%とハッキリと分れました。 「非常に住みよくなる」とか「非常に住みにくくなる」という順になっており、その他では「個々の経済観念が強い」とか「人口減少」「子供が後を継がない」という理由が主です。



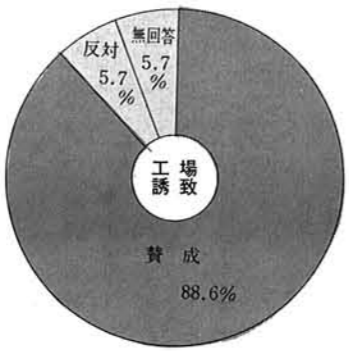
「住民の相互の協力」が78人、「市の協力意識が欠けて行く」「高校通学など教育環境が悪い」などがあげられています。

【6】今住んでいる地区に永住するつもりですか。 「永住するつもりはない」が76.3%。しかし「永住したいができない」が12.0%。

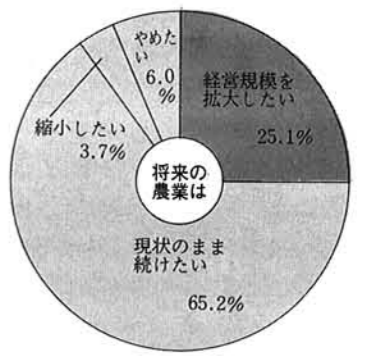


「永住するつもりはない」が合わせて16.4%もありました。その永住できない理由は、豪雪地だから...28.6%、後継者、配偶者がいない...20.0%、通勤が不便...15.0%、収入が少ない...12.1%、やりたい仕事がない...10.7%、その他...13.6%。このうち、通勤が不便、収入が少ない、やりたい仕事がない、と仕事に関するものが37.8%となり、

【7】離村した家のような家は、87.4%の人が離村した家を知っており、そのうち71.7%が「順調にいらっているようだ」と答えています。



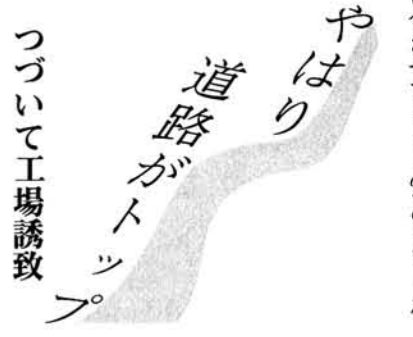
【8】工場誘致は賛成ですか。 ほとんどの人が賛成と答えましたが、「反対」も5.7%ありましたが、反対の理由は、公害が心配...50.0%、住民の一体感を損なう...27.3%、静かな環境をこわす...13.6%、その他...9.1%。となり、「地域性が似合わない」「老人は使ってくれない」という意見もありました。また「賛成だが、来る会社があるか疑問」の声も出ています。



「農業経営(養蚕含む)の将来についてどのように考えていますか。(該当者のみ)」

「経営規模を拡大したい」が約四分の一。昨年三月に行われた地域農政の意向調査の時より伸びています。畜産の振興などにより農業への意欲が高まってきているのでしょう。

しかし、「縮小したい」「やめたい」が、二〇〇四〇代の人を主に合わせて9・7%ありました。



つづいて工場誘致

「12」住みよくなるため、村や国・県にどんなことを行ってほしいですか。(五つ以内)〇、優先順位をつける

〇印のついた数では「除雪体制の強化」307人、「国道の整備」225人と道路関係の要望が上位を占めました。今までの意向調査でもいつもこれらがトップを占め、山

除雪体制の強化	307人(71)
国・県道の整備	225人(111)
積極的な工場誘致	196人(24)
教育、医療施設の整備	189人(23)
バス運行の強化	168人(19)
村道の整備	163人(25)
ゴミ・し尿処理	122人(11)
火葬場の整備	105人(14)
農林漁業の振興	90人(12)
スポーツ・レクリエーション施設整備	87人(2)
観光開発による外来客の誘致	66人(5)
公民館・集会所などの整備	50人(7)
その他	5人(3)

※()は優先順位1位にあげた人数

間豪雪地の山古志村ではどうしても道路整備、除雪強化が最優先となるでしょう。

三番目は「工場誘致」で196人。続いて「教育、医療機関の整備」189人となっています。また七、八番目に「ゴミ・し尿処理施設」、「火葬場の整備」があがっており、環境衛生面の要望も高まっています。

これを地区別にとすると、全地区で「除雪体制の強化」を一番目にあげていますが、二番目には種彦原が「国・県道の整備」、虫亀と竹沢が「教育・医療施設の整備」、三がと東竹沢が「村道の整備」と分れました。特に「村道の整備」については、他の地区では六〜八番目にしかあがっていません。この傾向は三番目以下も続き、今後の施策には地区ごとに、一層キメ細かい配慮が必要でしょう。

優先順位第一位でみると、やはり道路関係が上位を占めており、「工場誘致」、「教育、医療機関の整備」と続いています。

その他では「水の確保」、「中高年者雇用」などがありました。

活気ある村をつくるために——宮本先生の講演から

第8話

誇りをもって 農業をしよう

久しぶりに山古志へやって参りまして少し心を暗くしたことがあります。それは、畑に植えられて

いる作物——ひどく小さいんですね。実もそんなについていない。なかには、植えた時の苗のままの

大きさからほとんど育っていないようなものもありました。

もちろん、立派に作られている方も大勢いらつしやるでしょう。私の眼にしたのは、ごく一部の例外であつて欲しいのです。しかし、その例外というのが、

売りモノが 作れるだろうか

「売りモノにしない、家用のモノだから手をぬいてもよい」と、いう考えであるなら、そう安心してもらえないのです。というのは、何故かという、百姓が自分の田んぼや畑をいとおしむ気持がなくなつた、どうでもよいと思いはじめたということなのです。自分の口に入れるモノをどうでもいいや、と思っている人にお

金を頂戴するようなモノが作れるのでしょうか。

ひるがえつていうなら、そば屋が出来なそばを作り、自動車会社が出来た車を売って平然としている、というのと同じことではありませんか。こういうことは、己の仕事を誇りを持たなくなつてしまった時に起こるのです。

百姓の誇りと自給率

「野菜なんて、勤めの帰りに町のスーパーで買えばいい」と思う人もあるでしょう。確かに目先の損得勘定では、正しいかと思えますが、果してそうでは

うか。世界のどの国の百姓も、国民が力一杯働くことのできるように願つて食物を作るといふ仕事を誇りと自信を持って働いていることを忘れてはならないと思います。というのは、日本の食料の自給率という問題があるのです。日本は今、なんと三割ちょっとしか自給できないのです。七割近くは輸入に頼らざるを得ないのです。とても農業国とはいえないのです。アメリカは八割以上で、小麦などは余つて輸出する程ですし、ヨーロッパ各国も自給率五割以上の堂々たる農業立国です。万が一のことも考えて、自分の国は自らの力で養おうということ。それ程に百姓仕事は「国にとって大事な生命線だ」ということに外ならないから

です。というのは、石油という安い資源を利用して生きるように日本を作りかえてしまつたために、石油がなければいかなる製品も作れないのです。ところが円高で製品は売れない。石油は値上りする。従つて少ない金で高い油を買うのですから、工場は止まる。ガスも電気も制限される。農業にしたつて、車ばかりか、肥料、農薬も作れないし買えない。という事態があつたという間に起こつてしまつたのです。つまり、日本は喰うためにテレビや自動車を作っているのですね。それが、作れず、売れず、になれば食料を買い入れることは明日にも不可能になるということ。これが、自給率五割以上あつたら、今日の日本の姿はもう少し違ったものになつたかと思ふのです。そういう状況のもとに日本の農業は置かれているのです。少しでも自給率が上がれば、息がつけるのです。工場に日給めあてに働きに出て、作った品物が廻りまわつて食料となるよりは、売りモノになる作物を育て上げる方が、百姓の価値は高いのです。やりがいもあります。それとも、本当に食料不足がくるまで待つていて、その時には、「百姓は儲かるから」と

いではありませんか。このことをよく考えていただきたいのです。ことに、これからの山古志を盛りたてていく若い人たちに考え、調べ、学んでいくことをお願いしたいのです。それは、今も話した通り、今日ほど日本の百姓と世の中をつながりが遠くなつていって、世間知らずになつてしまつたことではないかと思ふからです。これは大変悲しいことで、その責任は私たちおとなにある訳ですが、その悪弊だけは受けついで欲しいのです。米がよい例です。

私たちが漠然と日本は農業国だと思つている原因は米が余っているからです。本当は米だけが余っているのです。そのことを冷静に見つめなければなりません。毎年、六、七月になると米価の問題で新聞はにぎわいます。今では米を作る人と、食べる人は完全に敵味方のような具合です。一方は安い、一方は高いという果てしないもので、いつまでやってもどちらにも利はないのです。何故、食糧制度というものができたのか、お互い知らなすぎるし、知つて



ないからです。それに引きかえ、スマートに思えた日本の生き方——原材料を買つて、加工して、輸出するという方式がここへ来て石油ショック、円高ドル安の輸出不振そして再び石油不足、省エネルギーと国中火のついたような騒

ぎです。今日のは、石油という安い資源を利用して生きるように日本を作りかえてしまつたために、石油がなければいかなる製品も作れないのです。ところが円高で製品は売れない。石油は値上りする。従つて少ない金で高い油を買うのですから、工場は止まる。ガスも電気も制限される。農業にしたつて、車ばかりか、肥料、農薬も作れないし買えない。という事態があつたという間に起こつてしまつたのです。つまり、日本は喰うためにテレビや自動車を作っているのですね。それが、作れず、売れず、になれば食料を買い入れることは明日にも不可能になるということ。これが、自給率五割以上あつたら、今日の日本の姿はもう少し違ったものになつたかと思ふのです。そういう状況のもとに日本の農業は置かれているのです。少しでも自給率が上がれば、息がつけるのです。工場に日給めあてに働きに出て、作った品物が廻りまわつて食料となるよりは、売りモノになる作物を育て上げる方が、百姓の価値は高いのです。やりがいもあります。それとも、本当に食料不足がくるまで待つていて、その時には、「百姓は儲かるから」と

いではありませんか。このことをよく考えていただきたいのです。ことに、これからの山古志を盛りたてていく若い人たちに考え、調べ、学んでいくことをお願いしたいのです。それは、今も話した通り、今日ほど日本の百姓と世の中をつながりが遠くなつていって、世間知らずになつてしまつたことではないかと思ふからです。これは大変悲しいことで、その責任は私たちおとなにある訳ですが、その悪弊だけは受けついで欲しいのです。米がよい例です。

私たちが漠然と日本は農業国だと思つている原因は米が余っているからです。本当は米だけが余っているのです。そのことを冷静に見つめなければなりません。毎年、六、七月になると米価の問題で新聞はにぎわいます。今では米を作る人と、食べる人は完全に敵味方のような具合です。一方は安い、一方は高いという果てしないもので、いつまでやってもどちらにも利はないのです。何故、食糧制度というものができたのか、お互い知らなすぎるし、知つて



山古志村消防団 大健闘

県消防大会での 小型ポンプ操法



競技出場の4人

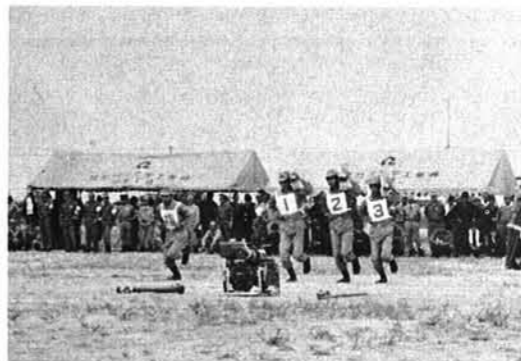
八月十九日、第二十四回県消防大会が新発田で開かれ、小型ポンプ操法競技の部に三島・古志の代表

として、第三分団から出場しました。式典の後、炎天下のグラウンドで、ポンプ車操法十二チーム、小型ポンプ操法十六チームが参加し、競技が行われました。

山古志の出番は第二番目。村内八十五人、三島郡からも二十人が応援にかけつけ、応援団の大声援の中、見せよ、古志の底力、と大健闘。正確、迅速に、日頃鍛えた成果を十二分に発揮。惜しくも入賞は逸したものの、県内の強豪に一步もひけをとらない技術は大きく評価されました。



消防団の方々はこのように日頃の訓練を通し、私たちの生活の安全を守ってくれていますが、私たちも、さらに火の恐ろしさを認識し、「火の用心」に努めたいものです。いよいよ収穫期に入って家を留守にすることも多くなります。火の始末には特に注意しましょう。



応援団も汗だくに



ことしの成人式から

二〇歳になり「自らに責任を持つ」

さる八月十四日、ことし二〇歳を迎えた青年男女の社会への門出を祝い励ます成人式が行われました。

今年からはこの成人式に、村外にいる村内出身者も対象にお盆に
「これからのむずかしい社会情勢のなかで、自らに責任を持ち行動したい。」
と謝辞を述べました。
式後は、恒例の弥彦神社参拝、角田浜海水浴場での遊泳など、互いの連帯を深め、思い出に残る楽しい一日を過ごしました。
立派に成長し、社会人として新しいスタートをきったばかりの若者ですが、これからの社会の担い手として大いにがんばってほしいものです。

駐在ごり



長岡警察署
竹沢・種彦原・蓮平駐在所

◆家出少年の発見保護

○なくしよう、子供の不安と悩みごと
○家出の子、見たら聞いたら 一一〇番

◆台風による災害事故防止

○気をつけよう、台風情報 空模様

◆秋の全国交通安全運動

9月21日～30日
○たしかめよう、家のまわりの危険箇所
○あげた手に、笑顔でこたえる 待つゆとり
○交通安全、職場にひろめる よい管理
○事故を呼ぶ、酒は飲まない 飲まずまい。

ガンの危険信号に「ごう」注意

の危険信号」を参考に、ときどき自己検診してみてください。

ガンの危険信号8か条

- ★ガンは無症状のうちに芽ばえます。とくに胃、子宮などは、年1回検診を受けて、安心しましょう。
 - ★つぎのような症状があったら、すぐ専門医に診てもらいましょう。
1. 胃……胃の具合がわるく、食欲がなく、好みが変わったりしないか
 2. 子宮……おりものや、不正出血はないか
 3. 乳……乳房の中にシコリはないか
 4. 食道……のみこむときに、つかえることはないか
 5. 大腸、直腸……便に、血や粘液がまじったりしないか
 6. 肺、喉頭……セキが続いたり、タンに血がまじったり、声がかすれたりしないか
 7. 舌、皮膚……治りにくいカイヨウはないか
 8. ジン臓、ポウコウ、前立せん……尿の出が悪かったり血がまじったりしないか

日本対ガン協会制定



9月は「がん制圧月間」

「天高く馬肥ゆる秋」の九月は「がん制圧月間」でもあります。がんで亡くなる人は年々増加するにせよ、昨年は全国で十五万人を超えました。自分の健康は自分で守る。がんをただ恐れるだけでなく、正しく知り、早期発見・早期治療を心がけましょう。がん早期発見の「目安」として日本対ガン協会が発表した「ガン

旧梶木小学校教員住宅の競売のお知らせ
旧梶木小学校教員住宅（建物）を9月中旬（予定）に競売します。希望者は9月10日までに、役場総務課へ申込みください。

おどろき憶ふ

八犬伝と その作者 佐々木味津三

おどろき憶ふにはおん身の力量。眼のあたりに観て初めて知りぬ。今もまたかかる勇士のいましたるこそ不思議なれ。願ふは本貫尊號旅館を。つばら（巨細）に名のらせ給へかし。記録にとどめて後々までの。かたりくさ（話柄）になさまく欲す。いかでいかで、とねんころなる。言語ひとしく乞い問はれたる。犬田が答をまたずして。すすみいでたる磯九郎は。さもこそあらめ。と誇りげに。はや須本太らにうちむかひて。あな大爺たちまだしらずや。これこの刀柄は東国より武者修業の為来ましたる。姓は。犬田たえなを。小文吾となんよばれ給ふ。海内無双の猛者なれば。旅亭の一借えらまれけん。小千谷のさとい名もしるき。石亀屋次郎太が。一大得意の客人なり。なれどもさせるもてなしなし。けふこそ這里の闘牛を。観せまいらせんとかねてより。約束せられし。哥哥の名代なん。みちしるべ立たれとも。さわぎで興もたちまちに。鮫守磯九郎を。みしらぬこととはなからんを。われらをおきて当面に。事問ひもうすは無礼

ならずや。と訛音高たしなむれは。牛裁判は力士とともには驚ろきながら仰見で。げにいほるれば磯九主。高名耳に轟くものからいまだ面をしらざりければ。敬なきわざを致したり。ゆるし給へとうちわぶるを。小文吾はかたはら痛し。と思へばこれを慰さめて。おのおの介意（ころおき）し給ふな武士たるものは戦場にて。名ある勇士を撃ちてこそ。いささか功に誇りもせめ。あれたる牛を制たりとて。何てふみずからたのむに足らんや。やうちながし給ひねと技に誇らぬ言の葉に。花をもたせて美はしき。答にみなみな感じたる。そが中に須本太郎は。牛裁判らにうち対ひて。能ある鷹は爪を隠す。といふことわざもゆえあるかな。いと大人なしてきた今のおんことばにまかしては。御庇に立し甲斐もなし。幾千人の老弱男女が。幸ひにして怪我もせず。ことはや無異におさまりたる。よろこびももうすべく。おく報ひもせまほしきに。今宵のお宿をつかまつらん。この義を取持給ひてよ。といふにうなづく牛裁判らは。

(116)